

地域社会との緊密な連携を築く

地域と協働する P T A 活動

瀬戸市立水野中学校 P T A

1 はじめに

瀬戸市は、愛知県の尾張北東部に位置する市で、古くより焼き物のまちとして栄えてきた。毎年9月には「せともの祭り」が盛大に行われている。

また、近年では、将棋の藤井聡太棋士の出身地として、地元を挙げて応援している様子がメディアでもよく伝えられている。

水野中学校は、市内北西部に位置し、昭和55年に開校、今年度45年目を迎える学校である。学区は山や田畑に囲まれたのどかな水野小学校区と、比較的新しい住宅造成地である西陵小学校区の2つの学区から成っている。愛知環状鉄道中水野駅があり、名古屋市のみならず、豊田や岡崎へのアクセスが良



【瀬戸市立水野中学校】

いことから、生徒数は増加傾向にあり、令和6年度の生徒数は590名、学級数20（含む特別支援学級3）の学校である。「立志・礼節・鍛練」の校訓のもと、一人ひとりが個性を発揮し、保護者、地域の方々から、温かく見守られながら楽しく学校生活を送っている。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

生活様式の変化やコロナ禍を機に水野中学校の P T A も組織改編や活動内容の見直しを行い、スリム化を図ってきた。

地域との関わりの観点で見ると、小学校は見守りボランティアや地域の方を講師に招いた授業など、地域の方々と密接に関わりをもちながら学校生活を送っている。それが中学校に入ると途端に関わりは薄くなり、地域と中学生との距離が遠くなってしまう。いろいろとつながりをもちたいが、中学校は敷居が高いと感じている地域の方もみえるようだ。

しかし、子どもの健やかな成長のためには、学校・家庭・地域が協働して多くの目で子どもたちを育てていくことが不可欠である。P T A 活動をスリム化した今だからこそ地域の力にも再度目を向け、家庭と地域全体で子どもたちの健やかな成長を願い、取り組んでいくことが必要であると考え、実践を進めた。

(2) P T A の組織改編と活動の見直し

① それまでの P T A 活動

本校の P T A は役員(11名：含教員4名)を中心に、常任委員、地

区委員の約60名が4つの部に分かれて活動を行ってきた。それぞれの部局で行事の企画から当日の運営まで行うため、担当の活動の際には仕事を休んで参加したり、人数に縛りのある活動での参加者集めをしたりしなければならず、非常に負担が大きかった。

② 主体的な組織へ

令和4年度より常任委員と地区委員を廃止した。また、役員については、事前にアンケートを行い、「やってもよい」と答えていただいた保護者を中心に構成している。

③ 主体的な活動へ

常任委員と地区委員の廃止に伴い、4つの部局も廃止した。慣例で行われていた活動内容を見直し、役員会で相談してその年の活動を企画し、実際の活動はボランティアを募って行う形へと変更した。

3 実践活動の概要

(1) PTA活動

① あいさつ運動

PTA役員と地区委員で割り振る形での活動をやめ、完全ボランティア制とした。昇降口前でのあいさつ運動の後、時間に余裕のある方には、校舎内を回って朝の活動の様子を見ていただいたり、登校途中の交差点で本校教員や地域のあいさつボランティアと一緒にいたり、さまざまな形をとって活動している。



【あいさつ運動】

② 水野まつり

昨年度、コロナ禍で中断されていた「水野まつり」が学区の小学校で開催された。水野中学校としてはこれまでPTAのOB会が出店しており、そこに現PTA役員も参加していた。令和5年度は中学生や卒業生がボランティアとして参加することになり、PTA役員は来てもらえる人の中で時間を区切って担当した。中学生や卒業生はいつもとは違った側での関わりとなることが大変興味深かったようで、時間を忘れて活動していた。また、小さな子への対応もすぐに慣れ、手際よく対応するため、大きな力となった。



【水野まつり】

③ 環境整備活動

活動を精選していく際、役員の中から挙げたのは「直接子どものためにつながる活動がしたい」という声だった。そこで、研修旅行や講演会のような活動は行わず、かわりに、環境整備作業としてエアコンフィルターの清掃活動や草刈りを行うことにした。当日はボランティアとして集まった方々を中心に役割分担をしながら行った。令和6年度の活動では、保護者とともに生徒が参加したり、卒業生を含む家族で参加したりと、少しずつ軌道に乗って広がりを見せつつある。

④ 制服リサイクル

不要になった制服や体操服を集め、制服リサイクルを行っている。制服が小さくなってしまったけれど卒業前に買うのはためられるという方や、洗い替えが必要だという保護者からは大変好評をいただいている。瀬戸市では令和5年度からブレザー制服が導入されているが、「子どもがセーラー服を着たがっているからありがたい」と言って、セーラー服を持ち帰る保護者もいる。

(2) 地域との連携

① 子どもを育てる連絡協議会

学区の子どもたちの健全な育成を目指して、学区内の幼保・小・中・高校の校長や園長、PTA役員、少年センターや自治会長、民生委員など、地域にかかわる諸処の団体の方々が集い、学期に一度開催している。学校・家庭・地域が横の連携を図りながら、子どもたちを守り、愛情を込めて育てていける地域環境づくりをめざし、情報を共有し、地域で子どもたちを見守っている。

② 少年センターによるあいさつ運動

PTAのあいさつ運動とは別に、式日などに、少年センターの方々があいさつ運動を行ってくださっている。本校には、生徒が主催するあいさつ運動もあり、これらを合わせると、1年間で数多くのあいさつ運動を行っている。登校してくる生徒も、様々な人にあいさつをして登校することにすっかりと慣れ、年々さわやかなあいさつができるようになってきている。

③ クリーン活動

1年に1度、本校の生徒はクリーン活動を行っている。朝、ゴミを集めながら登校し、学校でそのゴミを分別しながら地域のゴミ削減に関する意識を高めていくことを目的とした活動である。クリーン活動前日には、地域の社会福祉施設でつくられた軍手を少年センターの方々が昇降口前で生徒に渡し、生徒は当日その軍手を使ってクリーン活動を行っている。また、少年センターの方々は生徒とともにゴミの収集や分別を行ってくださっている。

④ 農業体験活動

特別支援学級の生徒が地域の方の田んぼをお借りし、農業体験を行っている。地域の方に協力していただきながら田植えから稲刈りまで行い、米作りについて学んでいる。収穫した米は生徒が分量を量って小袋に分け、個人懇談会で学校を訪れた保護者に販売実習を行ったり、地域の方の協力を得て、餅つきを行ったりしている。餅つきに関しては、ノウハウがないとなかなかできないが、準備段階から多くの地域の方が手伝ってくださり、盛況に行うことができた。



【餅つき】

(3) 生徒から地域へ

前述した「水野まつり」をはじめ、「西陵まつり」や地域の「ふれあいまつり」の際にも、水野中学校の吹奏楽部が演奏を披露し、まつりに彩りを加えている。演劇部は、学区の保育園やデイサービスへ出向き、演劇を披露したり、そこでのかわり活動を行ったりしている。また、様々な部活動において、小学生の児童と合同練習を行い、いっしょにプレイしたり、技術指導をしたりしている。このような活動は子どもたちの地域への参画意識を高めることにつながるとともに、地域に学校を知ってもらう機会にもなる。子どもたちの活動が地域に還元できる機会を今後も増やしていきたい。

4 おわりに

P T Aとしての活動自体はスリム化し、負担のない形へと変わってきている。保護者への案内は連絡配信ツール「tetoru」を用いて情宣し、活動後はホームページにその様子を配信することで、P T A活動状況をタイムリーに伝えている。それにより誰にでも気軽に参加できる組織へと変わりつつある。

また、地域の力を借りることで、学校と地域の協働活動は以前より増えてきている。令和6年度より、水野中学校区ではコミュニティ・スクール制度が導入され、学校運営協議会が発足した。水野ブロックには、地域のために活動している団体が多く存在し、子どもたちの安全や健やかな成長のために活動してくださっている。現時点では、地域は地域、P T AはP T Aと、それぞれに活動をしていることを、今後は、学校協働活動として、学校、家庭、地域全体で取り組む組織にしていきたいと考えている。

負担軽減を図りながらも、「参加しやすい・参加したくなる」活動を考えていき、学校、家庭、地域が一体となった魅力あるP T A活動を行っていききたい。